

2010 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会	学科
担当科目	社会調査入門		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

・ 仕事内容

講師控室での鍵の受取及び返却。

資料、レポート用紙の配布及び回収。

課題が出された際、学生の質問に応じ、考え方を示す。

・ 気づいたこと

「社会調査入門」という講義の名の通り、社会調査の古典的考え方や、データの性質、世の中においてどのように利用されているかなど、社会調査とは何かというイメージを形成するための入り口となる授業内容だった。そのため受講者は一、二回生がほとんどであり、時に居眠りや私語などをする姿が見受けられた。困難や退屈を感じているようだった。しかし、課題が出された際には、悩みながらも自分なりの答えを導きだそうとしていた。

・ 感想

四回生である自身にとっては面白い講義内容で、一回生の頃を思い出すこともあった。受身で聞くだけでなく、曖昧なイメージのなかでも自分で考え、納得していくことで、学生たちも一、二年後にこの講義内容を思い出し、理解や関心を深めていくだろうと思う。

チューターとしては、十分に先生や学生のサポートをできなかったと反省している。特に、学生から質問を受けたとき、上手く説明できなかったことが心残りである。言葉にできて初めて理解が成ると思う。自分の勉強不足を感じた。

<今後のチューターまたは先生への提案>

・ 面白いと感じる日と、ややとつきにくい内容だと感じる日があった。各国の自殺率やアメリカ軍の準拠集団、大統領選挙の話などは今も昔も印象に残っている。学生たちが社会調査のイメージを上手く掴み、関心を持つためにも、具体的な例を交えた話がわかりやすいと思う。

・ チューターにとっては社会調査の面白さや基本的な論理を再確認する良い機会。

2010 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会	学科
担当科目	社会調査入門		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

チューターとしての主な業務は教室の鍵の受け取りと返却、授業前のパソコンの立ち上げ、レジュメやコメントカードの配布といった単純なものであり、どれも問題なくこなせたと思う。春学期に別の授業で苦戦したコメントカードの返却については、机の上にコメントカードを学籍番号順に並べて生徒に取りに来てもらうという方法が最も時間がかからないということがわかり、春学期の反省点を改善することができた。またこの授業では私の他に女性のチューターが一人と女性の TA が一人いたが、業務の分担もうまく行うことができた。

今回は授業の終わりに生徒にコメントカードを書いてもらう機会が多く、生徒から質問を受ける場面が少なからずあった。生徒の質問は授業でわかりにくかった部分についての質問や単純に何を書いたらいいのかという質問など様々であり、最初はうまく答えることができなかったが、生徒が授業の内容を理解できるように手助けをすることはチューターの重要な役割の一つなので、授業の予習と復習を行い、できるだけわかりやすく質問に答えられるように努力した。また生徒が質問をしやすい状況を作ることに気を配った。具体的には、コメントカードの記入時間に生徒の間をゆっくり回って生徒が話しかける機会を作ったり、生徒同士で相談しているような場合にはこちら側から声をかけるなどした。自分から質問をしてこない生徒も、こちら側から声をかけると質問をしてくることがあったので、質問がありそうな生徒を見極めることも重要だと感じた。このようにコメントカードを何度も書かせられるのは生徒にとって苦痛であったかもしれないが、社会調査入門で扱った内容は特に社会学科の一回生にとっては今後の演習や卒業論文に大きく関わってくるものなので、コメントカードを書かせることによって授業の内容を理解させるという方法はとても良いと思われる。

チューターは先生がスムーズに授業を行えるように補助をしたり、生徒が授業の内容を理解できるように手助けをしたりするわけだが、自分がかつて学んだことを再び学び直すことで自分自身を成長させることもできる。私はチューターをやったことで人に何かを教えることの難しさなどを学ぶことができたので、機会があれば多くの人にチューターを経験してほしいと思う。

<今後のチューターまたは先生への提案>

配布、回収、返却に多少時間がかかるが、コメントカードを利用することで生徒が授業の内容をどれほど理解しているのかを確認することができ、また授業内容について考えさせることによって生徒はより授業内容についての理解が深まるのではないだろうか。